

鶏肉情勢

| 項目 | 内容 |
|----|--|
| 供給 | 1. 国内 (1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和5年5月末実施)によると、5月の推計実績は処理羽数63,620千羽(前年比102.2%)、処理重量192.5千ト(同103.4%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.4%の下方修正、処理重量は、2.9%上方修正された。鳥インフルエンザは4/6以降は発生していない。一部の農場で、急激な温度上昇に暑熱対策が間に合わず生産成績が落ち込んだとの話も聞かれるが、生産は比較的順調になっている模様。 (2) 6月の計画は処理羽数、処理重量とも前年をわずかに上回る見通しとなっている。地区別で見ると処理羽数は、全地区、前年を上回る見通しであり、処理重量は南九州地区を除く、北海道・東北地区、関東地区、中部地区、近畿・中国・四国地区、北部九州地区は前年を上回る見通しである。ただ、急激な温度上昇や、エンテロコッカスセコラム※が発生したとの話もあり、生産への影響が懸念される。工場の人員不足は技能実習生が来日するようになったことで、少しづつ解消されており、加工品(切り身・手羽中二ツ割・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の生産は徐々に回復していくと思われる。 |
| | 2. 輸入 (1) 財務省6月29日公表の貿易統計によると令和5年5月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から+4.3千トの51.7千トで、国別ではブラジルが前月+6.7千トの38.6千トでタイが▲2.1千トの12.2千トとなり、ブラジルは前月から増加したがタイは前月より減少となった。前年同月の実績に対しては+9.2千トとなった。タイ産の輸入量が回復したことで米国産は減少となり、ブラジル産は安定した数量となっている。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、6月が52.0千ト(前年比99.7%)、7月が50.1千ト(前年比109.8%)となっている。6月は前月時点の予測から変更せず、7月増加の予測となっている。ブラジル産については現地価格が下降傾向となっているが、6/27、ブラジル国内で家さんにて鳥インフルエンザが発生したことにより、日本政府は発生州からの一時輸入停止措置を発令した。今後の国内市場への影響が懸念される。タイ産は引き続き安定した入荷が予想され、ブラジルの影響もあり引き続き価格は上昇傾向となっており、国産ムネ肉への影響が考えられる。 (2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から▲4.5千トの35.4千トで、国別では中国が▲2.4千ト、タイが▲2.1千トとなった。前年同月の実績に対しては▲6.7千トとなり、前月比・前年比ともに下回る結果となった。タイの生産は回復しているが5月実績は減少となった。価格については依然として高騰しており、上昇傾向が予想される。外食についてはインバウンド需要等で回復しつつあり、中食・総菜向け等の引き合いも継続して強い状況である。 (3) 財務省が6月29日に公表した貿易統計によると5月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より1.2%上昇し、鶏肉調整品は前年同月より5.8%上昇した。国別ではブラジル産の価格が287円/kg(前月比16円高)、タイ産が347円/kg(同7円高)となっている(国別平均価格)。前年比ではブラジルは上昇しタイは下降した状況である。ブラジル産は5月実績は上げ基調となったが、国内市場価格は下降傾向となっている。今後は、ブラジルでの鳥インフルエンザの発生状況に伴う各国の対応次第で市況に変化が起こる可能性がある。タイ産については現地価格が引き続き上げ基調になっており、今後の国産鶏肉への影響を注視したい。 |
| 需要 | 1. 家計消費 (1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和5年5月の生鮮肉消費(購入)は数量4,224g(前年比99.2%)、金額6,669円(同102.7%)と、数量は前年を下回った。鶏肉は数量1,485g(同100.6%)・金額1,530円(同109.1%)・単価103.1円/100g(前年同月+8.0円)と、数量・金額・単価とも前年を上回る結果となった。調理食品が金額11,569円(同105.4%)、外食が15,319円(同113.5%)となっている。光熱費の高騰やあらゆる商品の値上げが相次ぐ中、節約志向が高まり、肉食・中食需要が持ち直してきている。外食においても、行動制限もなく、加えて入国規制緩和による外国人旅行者によるインバウンド需要もあり、コロナ前に戻りつつあると考えられる。 |
| | 2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和5年5月の食品売上高は全店ベースで前年比104.3%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同102.3%、既存店ベースは同100.8%となった。また、畜産部門の売上高は約1,191.5億円で全店ベース同104.8%、既存店ベース同103.2%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、相次ぐ値上げ、家庭の電気・ガス代の高騰等による節約志向の高まりで、家庭内食事需要の低下に歯止めがかかっているほか、気温が高く推移したことで涼味商材が好調。また、行楽・イベント需要も回復し、販売は順調に推移したとのこと。お客様は概ね値上げを受け入れている一方で、より低価格の商品を求める傾向が強まっているとのこと。畜産部門においては、精肉全般で相場高が続いているが、豚肉・鶏肉では安価な部位を中心に好調。牛肉ではGW期間中、パーベキュー・焼肉用の動きが良かったが、和牛など高単価商品の動きが鈍い。加工肉を含め、低価格商品に需要がシフトしており、売上高は確保できて利益が取れない状況が続いているとのこと。 |
| | 3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和5年5月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比108.6%の4.6千トとなった。うち国内品は同95.7%の3.4千トと前年を下回り、輸入品については同179.9%の1.2千トと前年を上回った。 |
| 在庫 | 1. 令和5年5月 (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推計期末在庫では国産29.3千ト(前年比94.2%・前月差+1.8千ト)、輸入品127.5千ト(同110.2%・同+8.0千ト)と合計で156.8千ト(同106.8%・同+9.8千ト)となった。 |
| | 2. 見通し (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、5月の出回り量は国産140.9千ト(前年比101.1%・前月差+1.9千ト)、輸入品43.7千ト(同101.5%・同▲11.0千ト)と合計で184.6千ト(同101.2%・同▲9.2千ト)となった。6月以降の国産在庫については、販売に苦戦しているも肉を中心に増加していくと予測する。輸入鶏肉については(独)農畜産業振興機構(ALIC)の予測では、入荷量は、6月は、タイ産の輸入量は増加するものの、前年のブラジル産の輸入量が多かったため、全体では前年並みと予測されている。出回り量も前年を下回る予測のため、6月の期末在庫は前年同月を大きく上回ると予測される。 |
| 相場 | 1. 令和5年6月動向 (1) 令和5年6月の月平均相場は、モモ肉745円/kg(前月差▲29円)・ムネ肉405円/kg(同▲3円)正肉合計で1,150円/2kgと前月を32円下回り、前年同月を200円上回った。モモ肉相場は月初769円、月末は735円となり(昨年は月初618円、月末627円)、昨年の相場を大幅に上回った。気温上昇の影響を受け、一部、生産成績が落ちた農場もあったが、生産は順調に推移している。モモ肉においては、相場が下がってきたことで、スーパーで特売を打つ店舗も増えてきたが、通常価格を下げるまでには至っていない。相場高騰の煽りを受け、販売は苦戦し、凍結回しが増えてきている。ムネ肉は鳥インフルエンザによる採卵鶏の親鳥不足の影響や、気温上昇に伴い涼味用商材としての需要もあり、生鮮品・冷凍品とも引き合いは引き続き強い。相場はモモ肉は下げ傾向にあるが、6月も引き続き高水準を維持した。 |
| | 2. 見通し (1) 7月の生産量は、前年並みの計画である。ただ、気温が上昇し30℃を超える日が続いているため、生産への影響が懸念される。量販店では鶏肉の販売は回復傾向が見られるとあるが、気温上昇の影響で国産モモ肉の苦戦は続くと思われる。外国人観光客も増え、インバウンド需要等から外食は回復傾向にあり、焼き鳥・からあげ等による鶏肉の消費拡大に期待したい。ムネ肉においては、モモ肉に比べると安価であり、涼味用商材として需要もあり、生鮮品の販売は順調に推移すると思われる。加工原料では数量確保のため、輸入品に切り替える動きも聞かれるが、凍結品は相変わらず引き合いは強い。以上のことから、モモ肉相場は下げの月平均700円、ムネ肉相場はもちあいの月平均400円と予測する。 (2) 6月27日、鶏肉輸出大国であるブラジルで、家さんで鳥インフルエンザの感染が確認された。生産量の少ない州での発生だが、近隣州には生産量の多い州があるため、今後の拡がり懸念される。量販店の鶏肉販売は回復傾向ではあるものの、低価格商品を求める傾向が強まっていることや、気温上昇等により、モモ肉の販売は引き続き苦戦が続くと思われる。例年より早めに年末商材を製造しているとの話も聞かれる。しかし、今後も食品をはじめ様々な物価高騰による値上げが続くことから、節約志向が働き、他の畜種と比較すれば安価な鶏肉の販売は底堅く推移すると思われる。モモ肉は下げ基調であるものの鶏肉相場は例年になく高水準で推移していくと思われる。(モモ肉 7月半ばより600円台) |

実績

生産状況 単位:千羽、千トン、%

| | R4年累計 | | R5年5月推計実績 | | R5年6月計画 | | R5年7月計画 | | R5年8月計画 | |
|------|---------|--------|-----------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|
| | 数量 | 前年比 | 数量 | 前年比 | 数量 | 前年比 | 数量 | 前年比 | 数量 | 前年比 |
| 入雛羽数 | 774,648 | 100.1% | 64,322 | 102.2% | 62,254 | 102.4% | 62,749 | 99.4% | 67,327 | 100.3% |
| 処理羽数 | 737,217 | 100.2% | 63,620 | 102.2% | 61,730 | 101.4% | 59,029 | 101.0% | 60,702 | 102.1% |
| 処理重量 | 2,224.1 | 99.9% | 192.5 | 103.4% | 184.4 | 100.3% | 174.6 | 100.8% | 178.9 | 102.7% |

※参考資料:㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」

輸入動向 単位:千トン、%

| 品名 | 鶏肉 | | | 調製品 | | | 合計 | | | 比率 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|---------|-------|------|------|
| | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | 鶏肉 | 調製品 |
| R3年累計 | 595.8 | 535.0 | 111.4 | 481.0 | 469.5 | 102.5 | 1,076.8 | 1,004.5 | 107.2 | 55.3 | 44.7 |
| R4年11月 | 49.8 | 57.8 | 86.2 | 43.1 | 43.8 | 98.5 | 92.9 | 101.5 | 91.5 | 53.6 | 46.4 |
| R4年累計 | 574.5 | 595.8 | 96.4 | 525.8 | 481.0 | 109.3 | 1,100.3 | 1,076.8 | 102.2 | 52.2 | 47.8 |
| R5年1月 | 44.4 | 53.8 | 82.5 | 34.3 | 43.2 | 79.4 | 78.7 | 97.0 | 81.1 | 56.4 | 43.6 |
| R5年2月 | 47.1 | 49.6 | 95.0 | 32.1 | 38.8 | 82.7 | 79.2 | 88.4 | 89.6 | 59.5 | 40.5 |
| R5年3月 | 47.5 | 45.1 | 105.3 | 40.6 | 47.8 | 84.9 | 88.1 | 92.9 | 94.8 | 54.0 | 46.0 |
| R5年4月 | 47.4 | 43.6 | 108.8 | 39.9 | 44.1 | 90.4 | 87.3 | 87.7 | 99.6 | 54.3 | 45.7 |
| R5年5月 | 51.7 | 42.5 | 121.7 | 35.4 | 42.1 | 84.1 | 87.2 | 84.6 | 103.0 | 59.3 | 40.7 |

※参考資料:財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

※エンテロコッカスセコラム
 腸球菌(細菌)のI種。鶏の腸内に常在していて、一定の数を超えると脊椎に腫瘍をつくる。
 症状) 脊椎圧迫による脚弱や脊椎腫瘍(敗血症や脳炎にも関連)

鶏肉の消費動向 単位:グラム、円、%

| 履歴 | 数量 | | | 金額 | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 |
| R3年平均 | 1,526 | 1,565 | 97.5 | 1,410 | 1,440 | 97.9 |
| R4年11月 | 1,495 | 1,536 | 97.3 | 1,505 | 1,429 | 105.3 |
| R4年平均 | 1,510 | 1,526 | 99.0 | 1,448 | 1,410 | 102.7 |
| R5年1月 | 1,491 | 1,563 | 95.4 | 1,559 | 1,450 | 107.5 |
| R5年2月 | 1,402 | 1,483 | 94.5 | 1,475 | 1,404 | 105.1 |
| R5年3月 | 1,497 | 1,550 | 96.6 | 1,511 | 1,439 | 105.0 |
| R5年4月 | 1,572 | 1,512 | 104.0 | 1,566 | 1,368 | 114.5 |
| R5年5月 | 1,485 | 1,476 | 100.6 | 1,530 | 1,403 | 109.1 |

※参考資料:総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

相場(年別・暦年) 単位:円

| | モモ肉 | ムネ肉 | 計 |
|------|-----|-----|-------|
| H27年 | 639 | 336 | 975 |
| H28年 | 621 | 255 | 876 |
| H29年 | 626 | 315 | 941 |
| H30年 | 595 | 282 | 877 |
| R元年 | 585 | 243 | 828 |
| R2年 | 614 | 269 | 883 |
| R3年 | 641 | 313 | 954 |
| R4年 | 662 | 348 | 1,010 |

在庫状況(推定) 単位:千トン、%

| 履歴 | 国産 | | | 輸入品 | | | 合計 | | |
|--------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 |
| R4年12月 | 24.6 | 35.5 | 69.5 | 124.2 | 114.4 | 108.5 | 148.8 | 149.9 | 99.3 |
| R5年1月 | 24.4 | 35.1 | 69.6 | 125.6 | 123.2 | 101.9 | 150.0 | 158.3 | 94.8 |
| R5年2月 | 25.0 | 33.9 | 73.7 | 128.1 | 129.3 | 99.1 | 153.1 | 163.2 | 93.8 |
| R5年3月 | 27.0 | 32.5 | 83.2 | 126.9 | 125.2 | 101.4 | 153.9 | 157.7 | 97.6 |
| R5年4月 | 27.5 | 31.3 | 87.9 | 119.5 | 116.3 | 102.8 | 147.1 | 147.6 | 99.6 |
| R5年5月 | 29.3 | 31.2 | 94.2 | 127.5 | 115.7 | 110.2 | 156.8 | 146.9 | 106.8 |

※参考資料:(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別) 単位:円、%

| 品名 | モモ肉 | | | ムネ肉 | | | 正肉合計 | | |
|--------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|---------|-------|-------|
| | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 |
| R4年平均 | 662 | 641 | 103.3 | 348 | 313 | 111.2 | 1,010 | 954 | 105.9 |
| R5年3月 | 799 | 631 | 126.6 | 411 | 316 | 130.1 | 1,210 | 947 | 127.8 |
| R4年度平均 | 702 | 627 | 112.0 | 371 | 317 | 117.0 | 1,073 | 944 | 113.7 |
| R5年4月 | 789 | 622 | 126.8 | 410 | 315 | 130.2 | 1,199 | 937 | 128.0 |
| R5年5月 | 774 | 624 | 124.0 | 408 | 321 | 127.1 | 1,182 | 945 | 125.1 |
| R5年6月 | 745 | 624 | 119.4 | 405 | 326 | 124.2 | 1,150 | 950 | 121.1 |
| R5年7月 | (700) | 637 | 109.9 | (400) | 340 | 117.6 | (1,100) | 977 | 112.6 |
| R5年8月 | (670) | 649 | 103.2 | (400) | 354 | 113.0 | (1,070) | 1,003 | 106.7 |

※()は見通し